

ソフィーの世界 目次項目

エデンの園—とにかく、いつか何かが無から生まれたはず
シルクハット—いい哲学者になるためにたった一つ必要な
のは、驚くという才能だ

神話—いい力と悪い力があやういバランスを

自然哲学者たち—無からはなにも生まれない

デモクリトス—世界—、超天才的なおもちゃ

運命—占い師は、本来意味のないものから何かを読みと
ろうとする

ソクラテス—もっともかしこい人は、自分が知らないという
ことを知っている人だ

アテナイ—そして廃墟からいくつもの建物がそびえ立ち

プラトン—魂の本当の住まいへのあこがれ
少佐の小屋—鏡の少女が両目をつぶった

アリストテレス—人間の頭のなかをきちんと整理しようとし
た、おそろしくきちょうめんな分類男

ヘレニズム—炎から飛び散る火花
絵はがき—自分にきびしく口止めをして

二つの文化圏—それがわかってこそ、きみは空っぽの空
間の根無し草ではなくなるのだから

中世—とちゅうまでしか進まないことは、迷子になることと
はちがう

ルネサンス—おお、人間の姿をした神の族よ
バロック—数かずの夢を生む素材

デカルトー工事現場から古い資材をすっかりどけようとした人

スピノザー神は人形使いではない

ロッカー先生が来る前の黒板のようにまっさら
ヒュームーさあ、その本を火に投げこめ
バークリー燃える太陽をめぐる惑星

ビヤルクリー曾祖母さんがジプシーの女の人から買った古い魔法の鏡

啓蒙主義ー縫い針の作り方から大砲の鑄達まで

カントーわたしの頭上の星空とわたしのうちにある道德律

ロマン主義ー神秘の道が内面につうじ

ヘーゲル—理性的なものだけが生きのびる

キルケゴール—ヨーロッパは破産への道をたどっている

マルクス—妖怪がヨーロッパじゅうを歩きまわっている

ダーウィン—遺伝子を乗せて生命の海を行く

フロイト—彼女の心に兆したおぞましい、身勝手な願望

わたしたちの時代！自由の刑に処されて

サルトル—実存は本質に先立つ

ボーヴォワール—第二の性

ハイデガー—存在と時間

どんな人間であっても、その人生はさまざまな可能性
に開かれている。しかし、そのことは人間に対して「不安」

をもたらしもする。人間は、この「不安」から逃れるために「世間」に従属しようとする。その中に安住していれば、自分自身の根拠のなさから目を背けることができるからだ。

カミュ「不条理(absurde)」という感情は単にあるものの感覚や印象の検討から生じるものではなく、馬鹿げた計画と明白な現実との比較、理に合わない結果と当然予想される結果との比較というように、「事実としてのある状態と、ある種の現実との比較から、ある行動とそれを超える世界との比較から噴出してくる」ものであり、したがってそれは人間のなかにあるものでも世界にあるものでもなく「両者の共存のなかにあるもの」「両者を結ぶ唯一のきずな」である。

そしてカミュは自殺を不条理な運命を見つめない態度として退け、

逆に不条理を明晰な意識のもとで見つめ続ける態度を「反抗」と言い表し、

それが生を価値あるものにするものだとして称揚している

ヴィトゲンシュタイン

哲学の役割は言語の誤用を指摘し、明確な言語の使用へと導くことだと考えました。そして、語り得ぬものに沈黙せよ。

フーコー

デリダ

ガーデンパーティー 白いカラス

対位法 二つかそれ以上のメロディが同時にひびく

ビッグバン わたしたちも星屑なんだ